

I 互いに深い同情心、慈愛、謙遜、柔和、寛容をもって互いに聴き合う教会。

「それゆえ、神に選ばれた者、聖なる、愛されている者として、あなたがたは深い同情心（同化ではなく、判断力を失わない愛の同情心は、祈りつつ良く聴く事から生まれる）慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい」：12。

「だれでも、聞くには早く、語るにはおそく、怒るにはおそいようにしなさい」（ヤコブ1：19）。  
耳を傾け、言葉だけではなく、気持ちを聴く事と御聖霊に導かれて語る事のバランスのある教会。  
祈りつつ目指しましょう。

II 互いに、まず主の愛を受けて、赦し合う教会。

「互いに忍び合い、だれかがほかのひとに不満を抱くことがあっても、互いに赦し合いなさい。  
主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたもそうしなさい」：13。

教会には、赦される必要のない完全な人は一人もない。牧師も信徒も。だから神は、教会に向かって「赦し合いなさい」と言われる。ある人をどうしても赦せない時、すべき事は、自分の力で赦そうと頑張る事ではない。神の前に静まる事である。

御言葉は、「主があなたがたを赦してくださったように」とある。自分自身が、今日まで、どれほど主に赦されて来たかを静かに思い起こしたい。主の赦しがなければ、とっくに滅んでおり、今日の私の命はない。しかし、今日も主に愛され、赦され、生かされている。この恵みに驚く事を止めてはならない。その主との深い交わりの中で、他の人を赦す心を主は与えて下さる。

人を赦さない資格はないと深く自覚させて下さる。

赦しの敵＝

※律法主義：神の恵みを自覚し感謝する事もなく、神の戒めを表面的に守り、出来ない人をさばく。

※完璧主義：自分と人へのハードルが高いため、神が赦された自分を赦せない、自己受容が出来ない。

その結果、他の人も赦せない、他人も受容できない。神との良い関係、人との良い関係を結びにくい。

III キリストの平和が支配する教会。

「キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。そのためにこそあなたがたも召されて一体となったのです」：15。

キリストの平和が、私達の心を支配する為には、悔い改めと信仰による平和の君であるキリストとの正しい関係、キリストとの親密な関係が必要。教会のかしらは、キリストのみ。かしら、支配者がキリストである教会を、私たち人間の誰かが支配してはならない。

私達は、人を支配（健全なノーを言わせない人格を縛る支配）してはならないと同時に、支配（かしらである主の御心ではなく、人に支配され、相手の言うなりになる。表面は従っていても、心では恨んでいる）されてもいけない。人を支配する事もなく、人から支配される事もなく、恵みとまことに満ちた平和の君であるキリストに、キリストの平和に支配され、教会の一体性、健全な一致（画一化ではなく、神からいただいた違いを認め合う一致）を保てるように祈りたい。

Ⅳ 神の恵みを忘れず数え感謝の心を持つ教会。神と人に感謝する教会。

「感謝の心を持つ人になりなさい」：15。

「感謝にあふれて心から神に向かって歌いなさい」：16。

「すべて主イエスの名によってなし、主によって父なる神に感謝しなさい」：17。

教会は、主が牧師を与えられている恵みを感謝する。

牧師は、教会員が、色々な戦いの中で、礼拝に来られる事を感謝する。

何一つ当然ではない。ゼロからの開拓は、牧師夫婦二人だけの礼拝から始まる事もある事を忘れてはいけない。

主の恵みに感謝しつつ、教会員が主からの賜物に応じて奉仕を分担し、そのおかげで、教会の命である「祈りと御言葉の奉仕」に牧師が専念できる恵みを感謝したい。使徒6：1-7。その時、教会は神により成長する。

Ⅴ キリストのことば、御言葉を住まわせる教会。

やはり、個人的にも、教会全体も、霊的に成長させるのは、主の生ける御言葉！

御言葉は、私達の霊的命、教会の命！

教会員に祈られ、牧師も御言葉に聴き、祈りつつ良く準備された共同の業、

結晶である礼拝説教の御言葉は教会の命！

「目をさまして、感謝をもって、たゆみなく祈りなさい。同時に、私たちのためにも、神がみことばのために門を開いてくださって、私たちがキリストの奥義を語れるように、祈ってください」コロサイ4：2, 3

「キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住ませ」：16

「生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、みことばの乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救い（義認・聖化・栄化）を得るためです」Ⅰペテロ2：2。

ディボーションの充実と通読の恵み。特に今年はチャンス。

「機会を十分に生かして用いなさい」エペソ5：16。

今年は、これまでの聖書（差別用語や原語が示している事に則していない訳があった）が、全面的に改定される「聖書 新改訳2017」が出版される。

原点に忠実な、より良い訳の聖書が出版される事は楽しみである。

この機会を生かして、新しい気持ちで「生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、みことばの乳を慕い求めなさい。それによって成長し（主の御姿、ご性質に変えられ続ける）、救い（義認・聖化・栄化）を得るためです」Ⅰペテロ2：2の御言葉を今年体験できれば幸いです。

御言葉を慕う毎日にディボーションと聖書通読と毎週の礼拝説教の御言葉でと互いに御言葉の恵みを分かち合う小グループの交わりで、個人的にも教会全体としても主の御姿に成長し続けることが出来ますように！